



2025年3月期

～前期実績と今期の見通しについて～

株式会社ヤクルト本社
代表取締役社長
成田 裕

Yakult

2025年5月13日

2025年3月期 連結決算概況



	実績 (うち、為替影響額※)	前年比	予想対比 (2024/11/12発表)
売上高	4,996億円 (+108億円)	99.3%	97.6%
営業利益	553億円 (+17億円)	87.4%	90.1%
経常利益	758億円 (+24億円)	95.7%	93.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	455億円 (+14億円)	89.3%	87.6%

※為替影響額は対前年度実績

2026年3月期 連結業績予想



業績予想
(うち、為替影響額※)

前年比

売上高

5,060億円
(▲121億円)

101.3%

営業利益

585億円
(▲25億円)

105.6%

経常利益

745億円
(▲33億円)

98.2%

親会社株主に帰属する
当期純利益

490億円
(▲17億円)

107.6%

1株当たり
当期純利益

(円 銭)
167.13

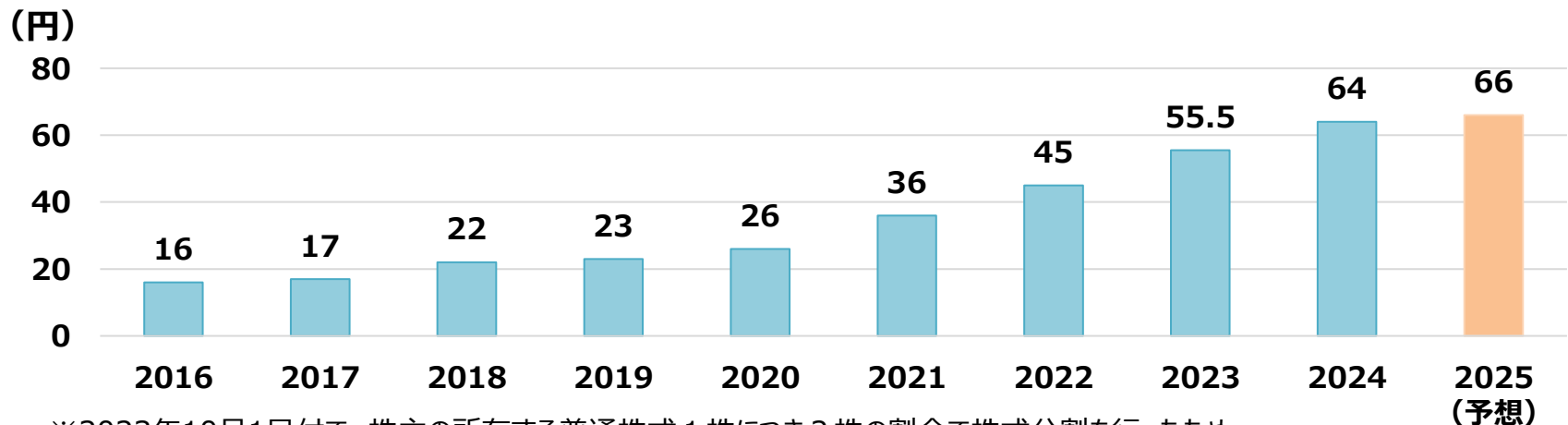
111.1%

※為替影響額は対前年度実績

<方針>

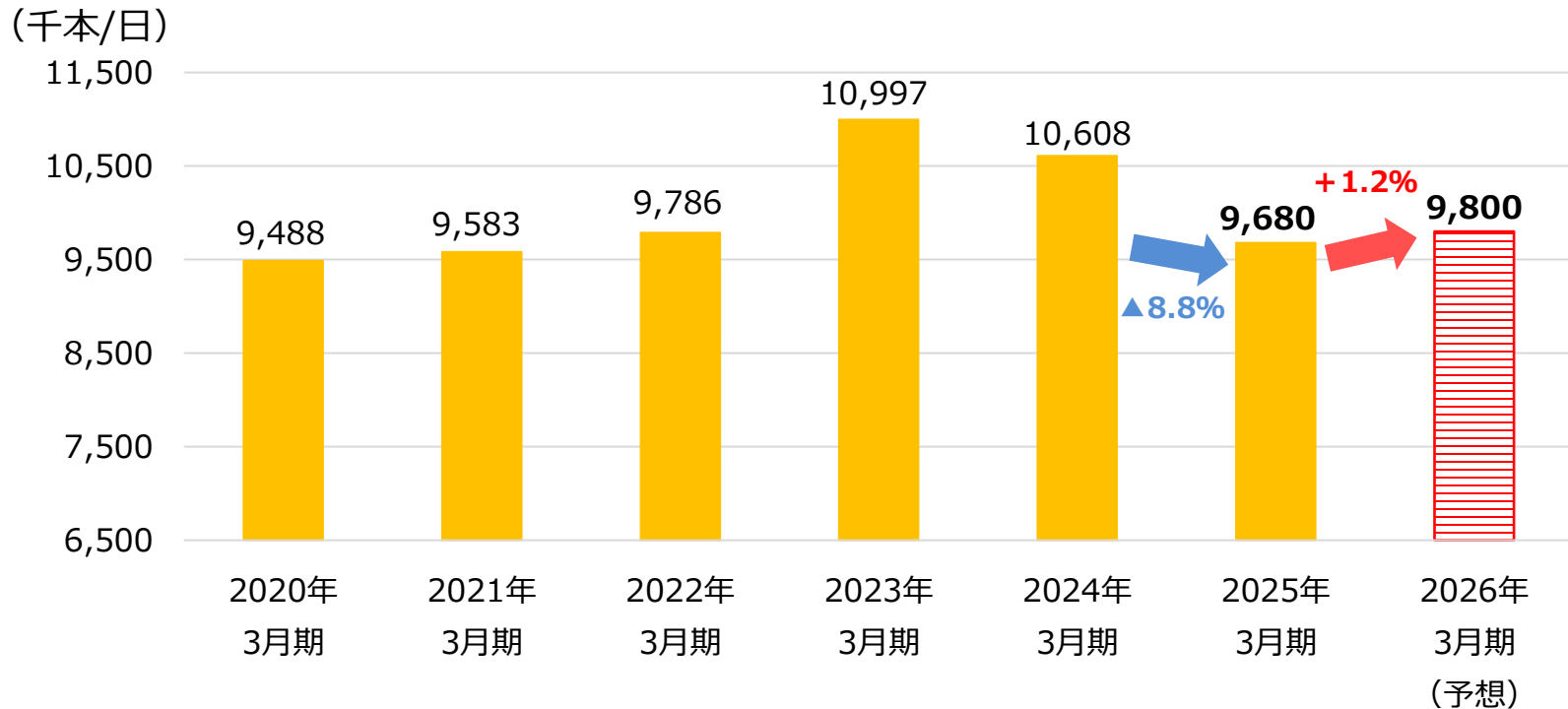
累進配当の考え方に基づき、継続的な増配を目指すことを最優先とし、将来の事業拡大や収益向上を図るための資金需要および財政状況ならびに当期の業績などを総合的に勘案して配当金額を決定します。

加えて、総還元性向70%を目安とし、市場環境やキャッシュ・フロー等を勘案したうえで、機動的な自己株式の取得を実施します。
※自己株式の取得は、2030年度までに1,000億円以上の実施を見込んでいます。



※2023年10月1日付で、株主の所有する普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、過去に遡って株式分割の影響を考慮した金額を記載しています。

＜乳製品全体の販売本数推移＞

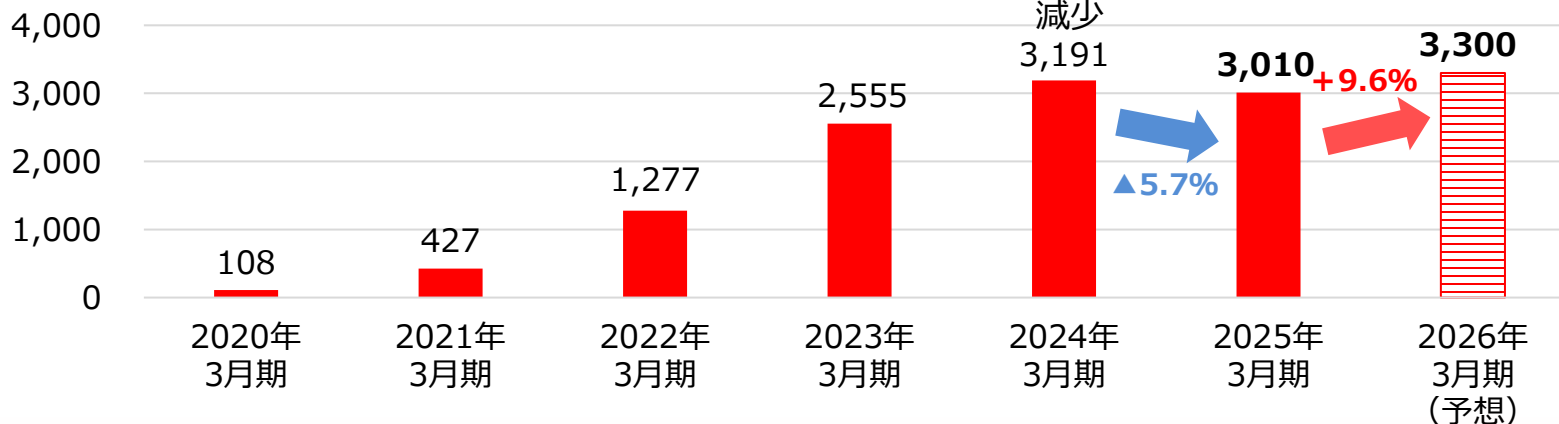


前期実績と今期の考え方について

- ・2025年3月期は、前年と比べ、乳製品全体の販売本数が**8.8%減少**
- ・今期は、利益貢献の高い**ヤクルト1000シリーズ**の本数増加に注力

＜ヤクルト1000シリーズの販売本数推移＞

(千本/日)



糖質・糖類、カロリー、甘さを気にされるお客さまの声を商品化

「Yakult（ヤクルト）1000 糖質オフ」



2024年11月 関東1都3県限定発売
2025年 1月 全国発売

「Y1000 糖質オフ」

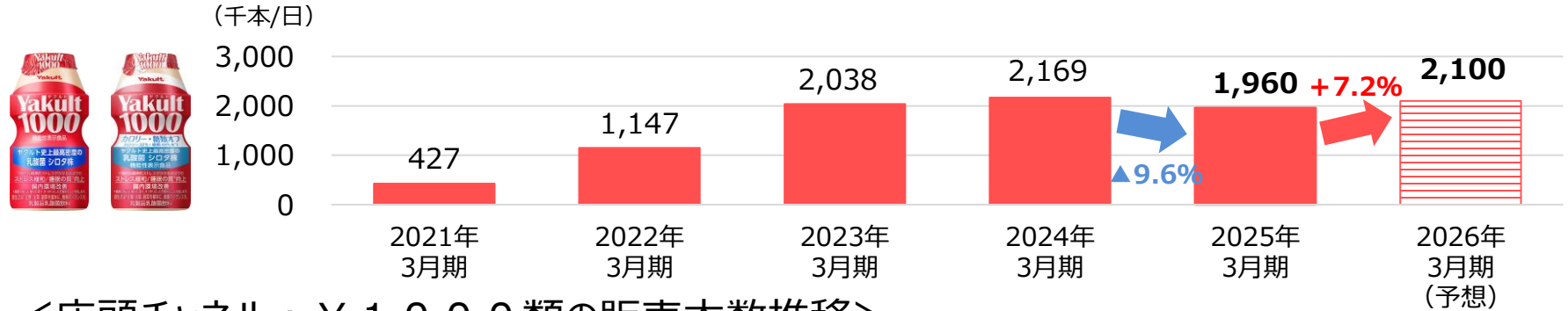


2025年4月 全国発売

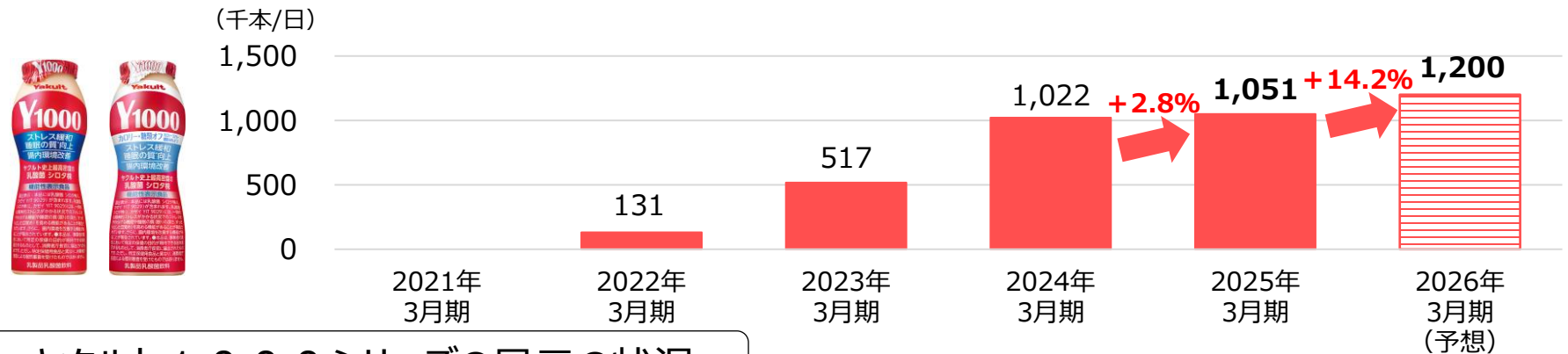
飲料食品事業（日本）



<宅配チャネル：Yakult1000類の販売本数推移>



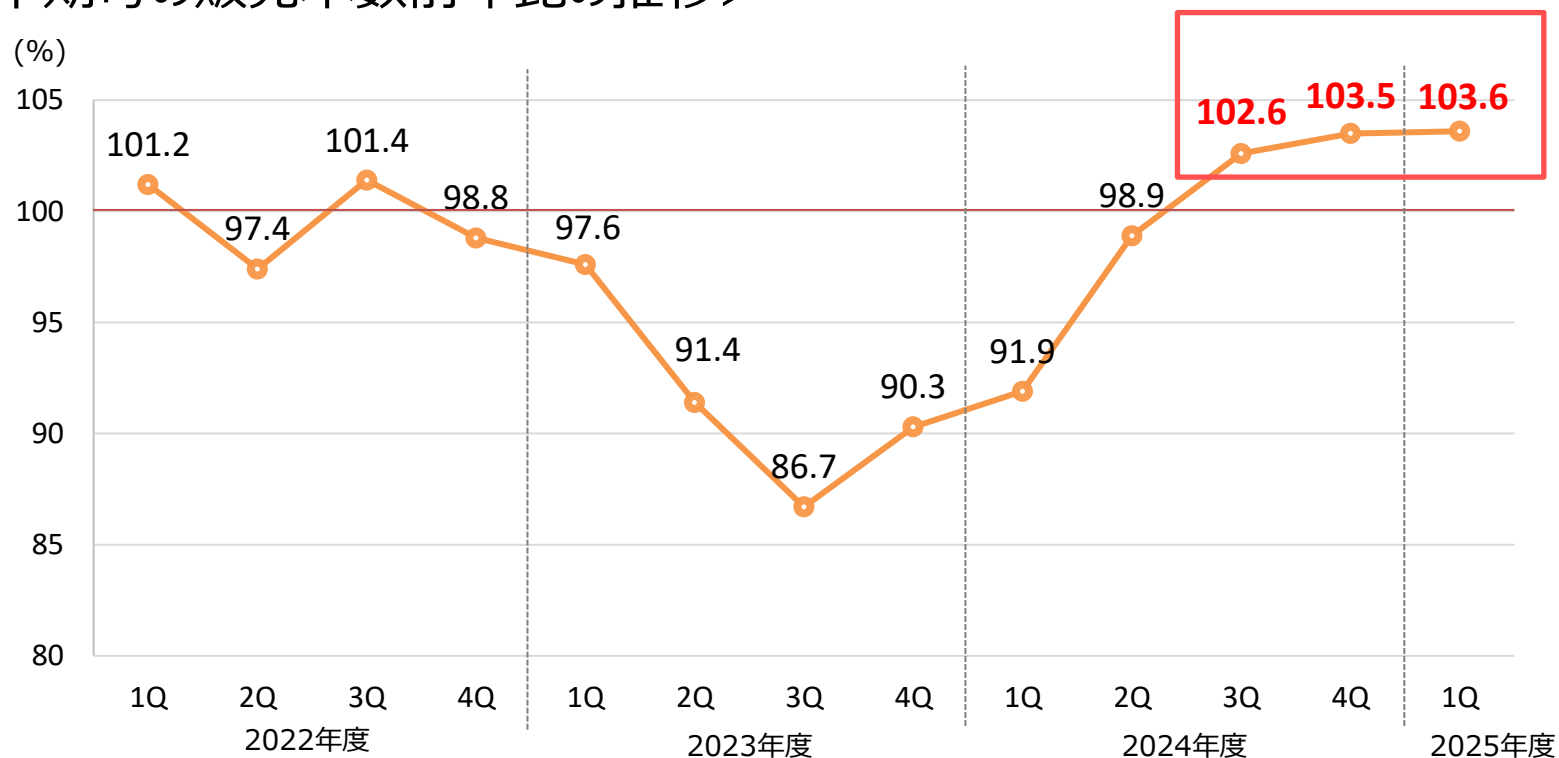
<店頭チャネル：Y1000類の販売本数推移>



ヤクルト1000シリーズの足元の状況

- 「Yakult（ヤクルト）1000 糖質オフ」は、**既存のお客さまへのご紹介が先行**商品の入れ替わりが進んでいるが、**足元の実績は100万本／日**に達した
- 「Y1000」「Y1000 糖質オフ」が店舗の棚に並び、販売促進活動の活発化や広告展開を実施することで**露出が増えている**

＜四半期毎の販売本数前年比の推移＞



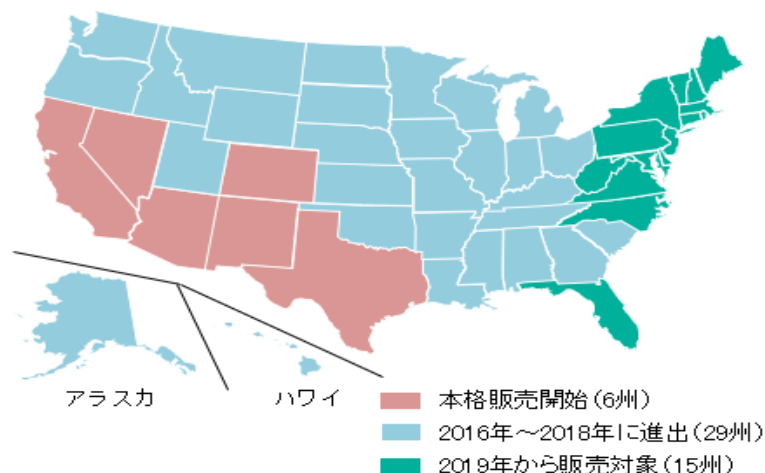
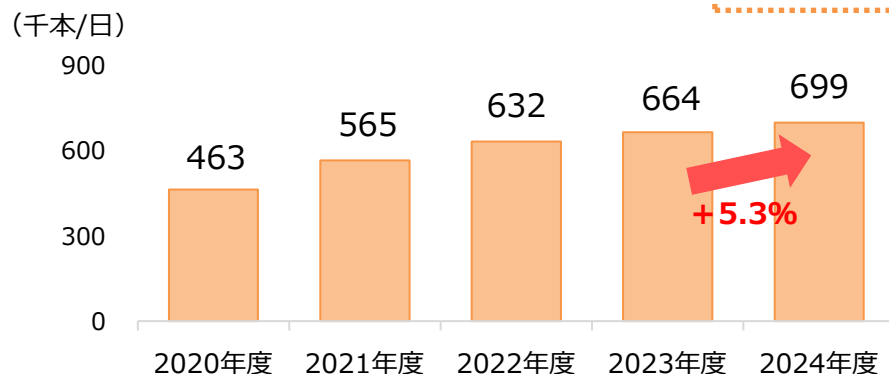
販売本数の状況

- ・2024年度は中国の実績が底打ちしたことで、第3四半期、第4四半期は、**前年を上回った**
- ・2025年度の第1四半期も**継続して前年を上回っている**

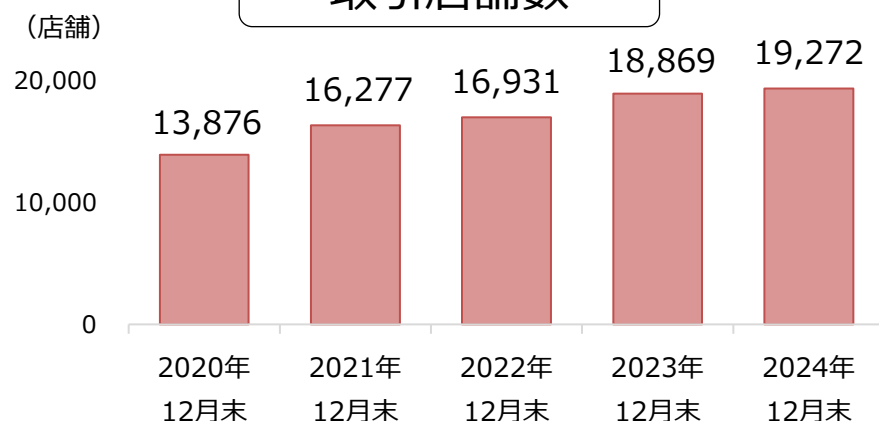
飲料食品事業（海外） ～主要事業所の状況（アメリカ）～

Yakult

販売本数



取引店舗数



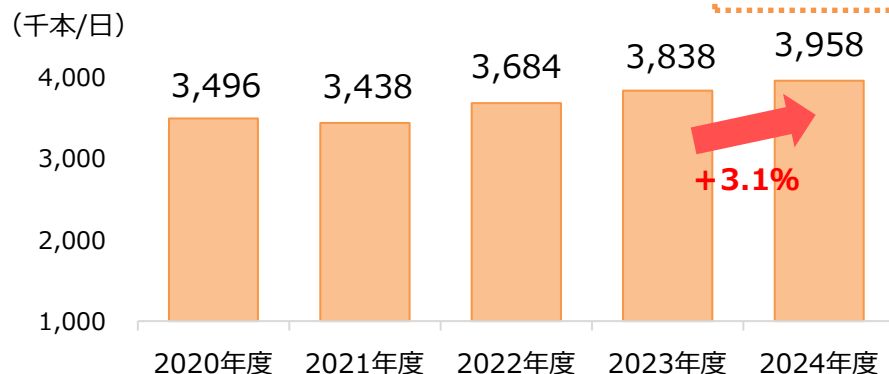
アメリカ第2工場（ジョージア州） 2026年9月稼働予定

- ・2024年度の販売本数は**過去最高本数を更新**
- ・配荷店舗数は約2万店舗だが、**配荷対象店舗の半分にも達しておらず、**
今後も販路拡大は可能

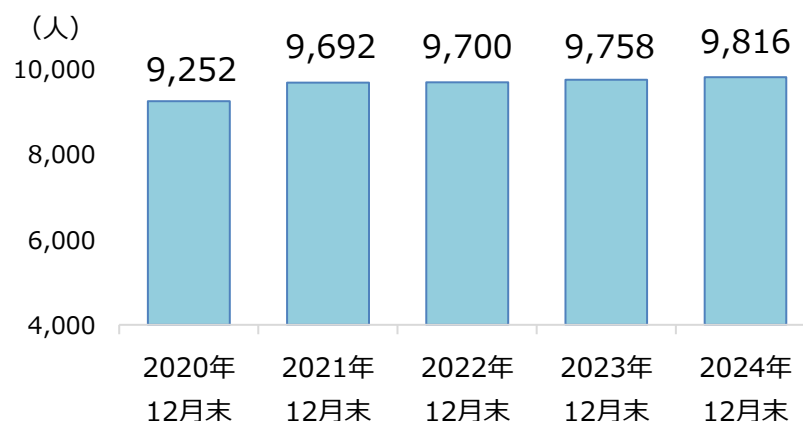
飲料食品事業（海外） ～主要事業所の状況（メキシコ）～

Yakult

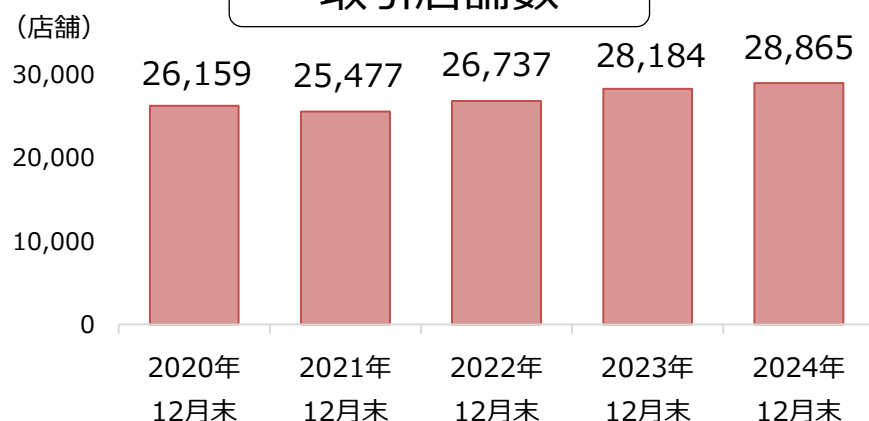
販売本数



ヤクルトレディ数



取引店舗数



- ・2024年度の販売本数は**過去最高本数を更新**
- ・毎年、**値上げを実施**しているが、販売本数は前年を上回る

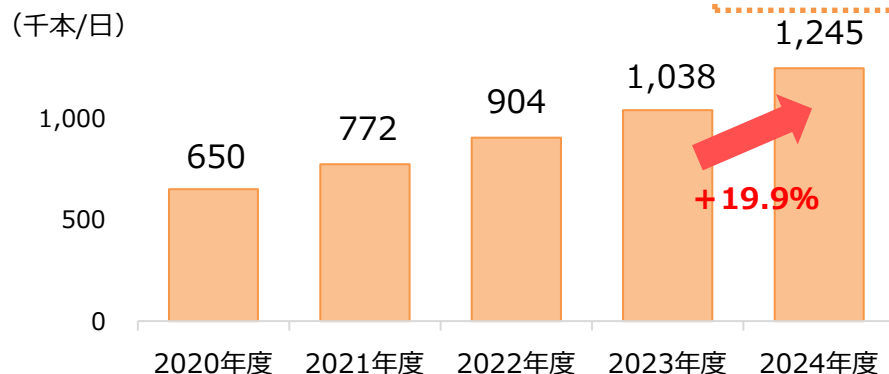
飲料食品事業（海外） ～主要事業所の状況（ベトナム）～

Yakult

販売本数

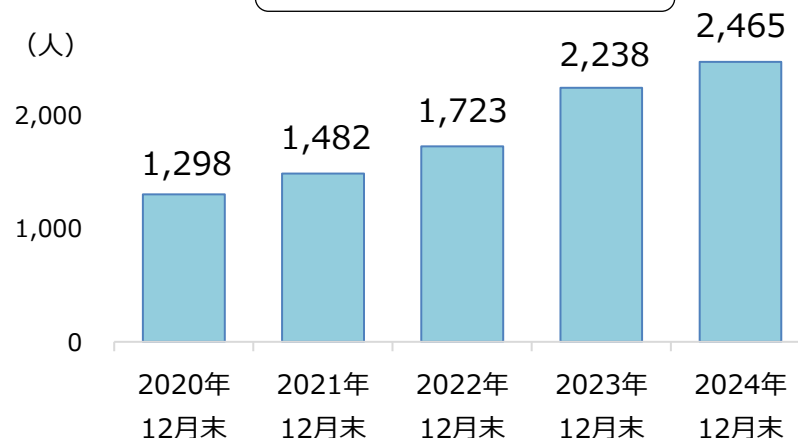
(千本/日)

過去最高本数



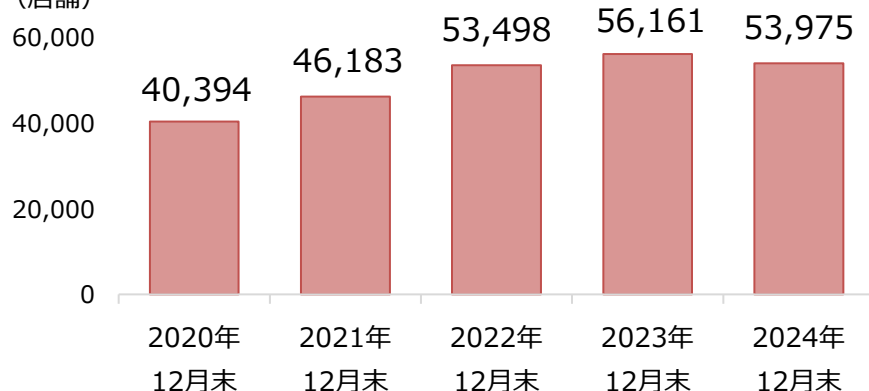
ヤクルトレディ数

(人)



取引店舗数

(店舗)

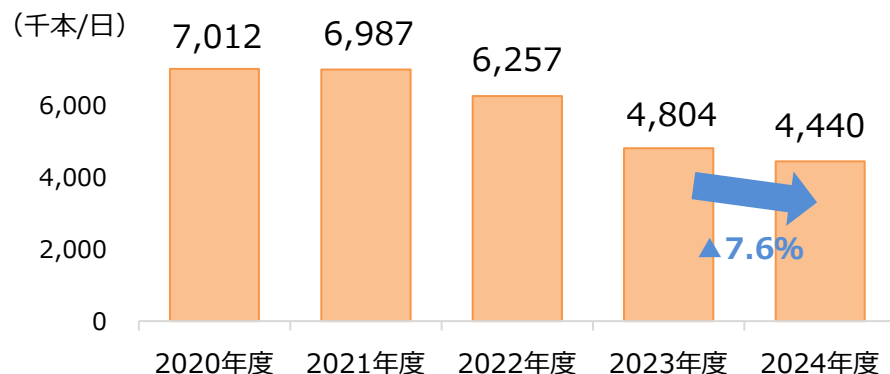


- ・2024年度の販売本数は前年比119.9%と**過去最高本数を更新**
- ・販売地域の拡大、店舗あたりの本数増といった深掘りの余地は大きく、**伸長ポテンシャルが高い**

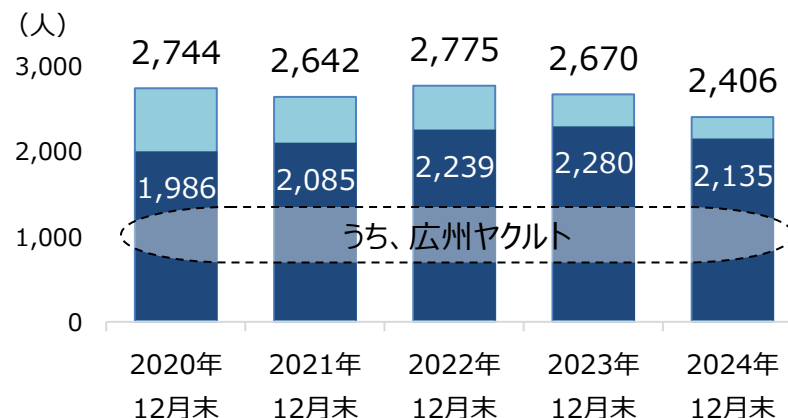
飲料食品事業（海外） ～主要事業所の状況（中国）～

Yakult

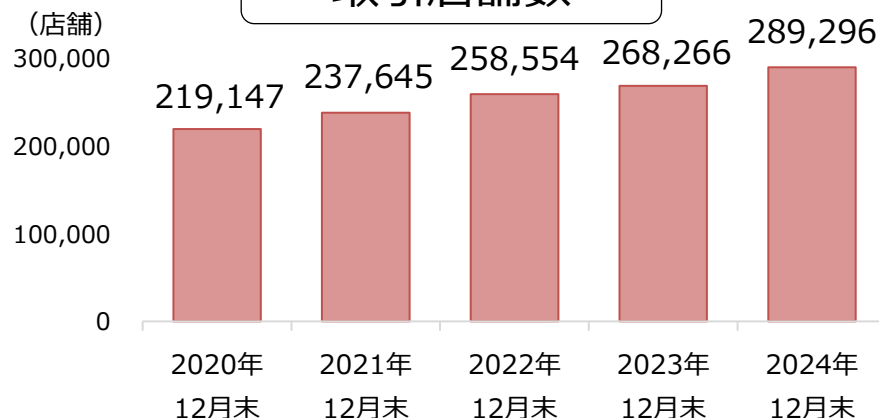
販売本数



ヤクルトレディ数



取引店舗数



新商品展開

- ◆「ヤクルト マスカット風味」を発売（2025年4月）
- ・「ヤクルト ピーチ風味（鉄プラス）」に続く商品
- お客さまの興味を引き、商品を手にする機会を創出

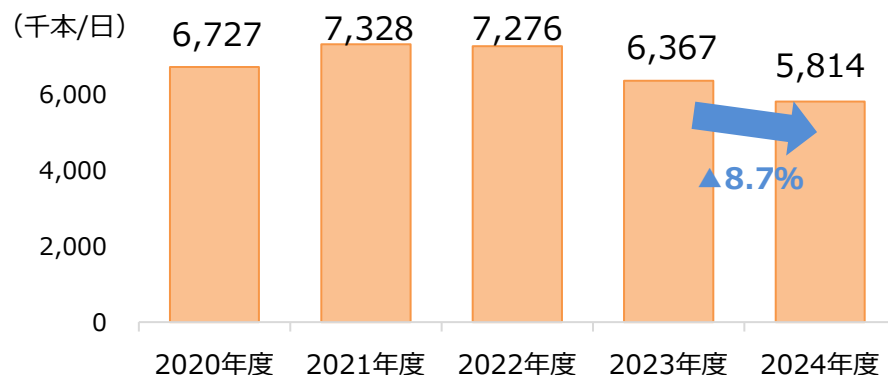


- ・2024年度下期（7-12月）の販売本数は、前年比103%と**底打ち**がみられる
- ・2025年第1四半期の販売本数は、前年比103.9%で**前年を上回る**
- ・**経費の見直しも継続**し、利益確保を図る

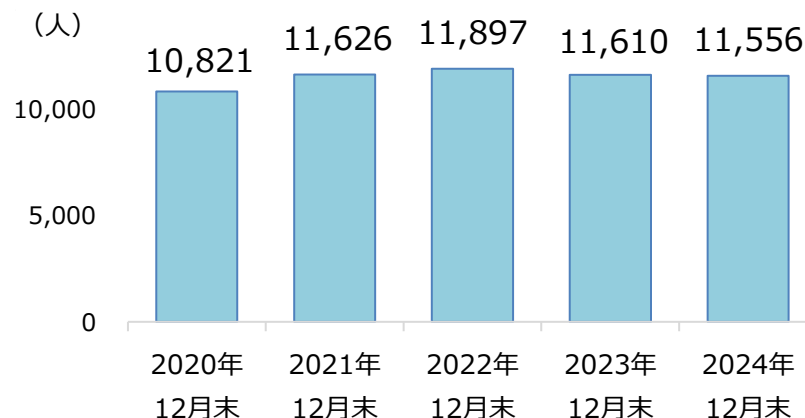
飲料食品事業（海外） ～主要事業所の状況（インドネシア）～



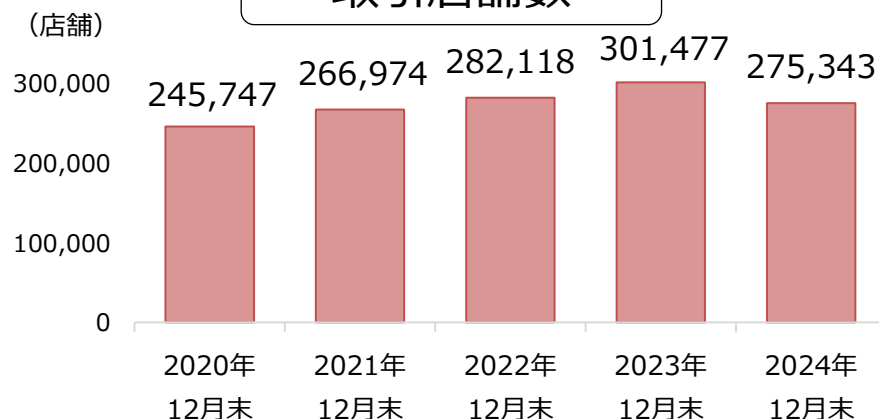
販売本数



ヤクルトレディ数



取引店舗数



多方面から施策を実施

スーパーマーケット
への配荷促進

SNSの活用

EC旗艦店の
開設

新商品の展開
(普及型商品)

- ・消費鈍化の影響が大きいですが、四半期を追うごとに前年の**減少幅は縮小**
- ・ヤクルトレディ組織の強化を進め、約11,000名のパワーを最大限に発揮

中期経営計画（2025-2030）



◆今期から新しい「中期経営計画」がスタート



1

事業戦略

2

財務・資本戦略

3

非財務戦略

当資料に掲載されている過去の事実を除く、計画、予想などは、不確定な要因を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

当資料のいかなる情報も投資勧誘を目的としたものではありません。また、弊社は当資料の内容に関し、いかなる保証をするものでもありません。万一、この資料に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いません。